



↑ いわいずみ町にとどいた食べものや生活にひつようなもの

昭島市ではあたたかくなってきましたが、いわ手県いわいずみ町では、夜には気おんが0 どり下がるなど、まだまださむさがきびしいようです。

東北地方でおきた地しんから1ヶ月がたちますが、まだ地しんがつづいていて、ひがいをうけた人やいわいずみ町のしょくいんの人たちのつかれは大きくなってきているものの、町はふだんのようにすに近くなってきているようです。小学校や中学校の入学しきを行うことができたという明るいニュースも入ってきています。

2 回目にいわいずみ町に行ったしょくいんのみなさんのほうこくです。

◎だい2はん

- ・行ったき間 4月2日(土)から4月9日(土)まで
- ・行ったしごと ひなん所にいる人たちが自分の家やしごとに行くときの記ろく

ひなんしょ

- 少しずつ、親せきや知っている人の家に行く人たちが出てきている。町みん会かんで50人、ホテルで140人が生活している。なるべく多くの人をホテルにうつしていくことがよいようだ。
- 地しんの時から親せきや知りあいの家にひなんしていた人たちが、「長くいるとめいわくがかかる」と考えて、「ひなんしょに入れてほしい」というそうだんをしている。

町の人がかりにすむ家

- 4月のうちに130の家をかんせいさせるよていで、今、ひなんしょで生活しているほとんどの人たちがすむことができそう。
- かりにすむ家には、れいぞうこ、せんたくき、テレビ、そうじき、エアコンなどがそろえられている。
- かりにすむ家に入る人たちは、年れいが高い人が多く、これから、かいごのサービスやいろいろな人からの手つだいのひつようが出てきそうだ。

いわいずみ町の人たち

- 明るい顔を見せてくれるものの、つかれなどから気もちわるくなる人もいる。
- わるいことをする人もいて、さかなをとるためのきかいがぬすまれるじけんがおきている。
- 大きなひがいをうけたおもと地くからにげてきた人が「何年かかっても、やっぱりおもとに帰りたい。」と話していた。
- 地しんでなくなった9人の人たちのための「おそうしき」のじゅんぴをしていた。

食べものや生活にひつようなもの

- 「リゅうちゃんドーム」にたくさんとどいていた。今は、細かく分けたものをふくろに入れて少しずつくばっているが、かりの家がかんせいすれば、家ぞくの人たちにまとめてくばっていく。

ボランティア

- おもと地くには、まだ、自えいたい、しょうぼう、けいさつといわいずみ町の人たちしか入ることができない。
- ボランティアが、ひなんしょで「これから、ボランティアに何をしてもらいたいですか」というアンケートをしていた。
- 秋田県からのボランティアが、へやをくぎる大きないたをおいたり、ほうりつのそうだんをしたりしていた。

おいしゃさん

- 12人のかんごしさんが、体の弱った人たちの見まわりをしている。

電車やバス

- 電車やバスは、ほぼいつもどおりうごいている。(電車はうごいていないところがある。)
- 道ろはほとんどが通ることが出来る。ガソリンはふつうに買うことができる。

今もつづいている地しん

- 4月7日の夜におきた地しんでは、大きなゆれをかんじ、つぎの日の午後2時30分まで電気がとどかなかったが、いわいずみ町の人たちはおちついていた。

【北川市長からいわいずみ町に行ったしょくいんにおくった言ば】

だい1ぱんにつづき、よくがんばってきてくれた。しょくいんのみなさんには、この体けんを生かして、これからもがんばってほしい。

【いわいずみ町に行ったしょくいんのみなさんのかんそう】

えんどう ひろふみ さん

すごく大きなひがいをうけた町のようにすを見て、自ぜんのこわさを知った。また、いわいずみ町の人々の明るさがうれしく、ぜん国からあつまった食べものや生活にひつようなものを見て、あたたかい思いをかんじた。

むらやま まさひろ さん

今のおもと地くは、ここに町があったとは思えないすがたで、せんそうがおわったすぐのようなかんじがした。「何かしなくてははいけない」と考えて、いわいずみ町に行ったけれど、少しでもやくに立てたならうれしい。

かとう ひろし さん

つなみにおそわれた地くでは、せんそうのえい画を見ているようでは言ばが出なかった。いわいずみ町の人たちががんばっているのを見て「東北の人のこんじょう」をかんじた。

いのうえ けんじ さん

いわいずみ町の人たちと話してみると、ひる間は元気なように感じるが、夜になるとまだまだふあんやくるしさが出てくるようだ。「ふつうに生活できること」のありがたさをかんじた。

